



永禄六年 上州箕輪城絵図

明治9年(1876)

箕輪城は関東管領上杉氏の重臣長野氏が築城しました。永禄9年(1566)武田信玄は長野氏を滅ぼし、西上野支配の拠点となりました。天正10年(1582)武田氏滅亡後、滝川一益を経て、^{はちがた}鉢形城主北条氏邦が城主を兼ね上野支配の拠点としました。同18年豊臣軍を前に落城後、井伊直政が慶長3年(1598)和田(現高崎市)に移転するまで12万石の居城となりました。

この図は土屋^{おいひら}老平が作成したと見られ、明治初期に見ることができた井伊氏時代の遺構をもとに、長野氏時代の箕輪城をイメージして描いた絵図と考えられます。

土屋喜英家文書 P1103 No.26